

学位取得 おめでとうございます

卒業おめでとう。大学生活のほとんどをコロナ禍という逆境の中で過ごされ、多くの困難を乗り越えて今日の日を迎えられた皆さんに、心からお祝いの言葉を贈ります。また大変なご苦労の中、この4年間を支えてくださったご家族の皆様にも深く感謝いたします。

これからが これまでを決める



学長 成田 健一

今、世界はさまざまな要因で対立・分断が深まり、この先の社会のあり様は、不確実性、不透明感が増すばかりです。昔にはフェイクニュースや真偽の判別がつかない強い主張が渦巻き、我々を振り回しています。この時代はかつてないほど多様な価値観や情報が

答に飛びつきたくありません。しかし、今必要なのは、簡単な答えを見つけてくれるのではなく、辛抱強く考え続ける力、ひたすら考え続ける不安定な状態に耐える力、ネガティブ・ケイパビリティです。さらに、これからは皆さん自身が情

況に陥っています。このような情報社会の中で、若い世代は、政治や社会に無関心になるか、強烈にわかりやすい主張に身を委ねるか、両極端に走る傾向が強まっているように感じます。人は、難しい事態に直面したとき、何かしらその状況を説明できる簡単な

報化されるという社会に益々なっていくと思います。スマートフォンで多様なアプリを使い、ネット広告にさらされ続ける私たちは、既にデータ化され管理されています。一旦蓄積されたデータは自分では消せないため、我々は過去のデータに益々拘束されることになりま

社会課題に 技術をつなぐ 感性を

「卒業おめでとう」です。日本工業大学で4年間、皆さんはそれぞれの分野の探究に努められました。それらを通して、専門知識、技術の習得とともにエンジニアとしてのマインドを強め、ものごとをつくりあげ、形づける力というものを身に付けてこ



理事長 柳澤 章

入學して2年目の春、パンデミックによって学びの環境、キャンパスライフが一転しました。不自由を余儀なくされましたが、同時に、持ち前の技術マインドを大いに発揮しながらリモートとリアルハイブリッドをやり遂げ

て来られ、本日を迎えられました。大小様々な困った問題を解決する事が技術の大きなミッションであり、その挑戦の中で想像もしていなかった素晴らしいものをつくり出してみせることは技術の醍醐味です。日々次々と新技術のニュースが報道され、一方で、日本を地

環境特別講演会 プラスチックの現実と 未来へのアイデア

環境特別講演会



オンラインで講演を行う高田教授

今年度の環境特別講演会へは1月21日、講師として東京農工大学農学研究院物質循環環境科学部門高田秀重教授を招き「プラスチックの現実と未来」をテーマに開催された。今回のテーマは環境問題の中でも注目されているプラスチック汚染問題に焦点を当てた。リモート参加

対面のハイブリッド形式で実施され、教職員、学生を合わせて約120名が聴講した。併せて、リアルタイムで聴講できなかった学生に向けYouTubeによるオンライン配信も行

間、体内から検出されたというデータもある。またプラスチック素材に含まれる酸化防止剤、可塑剤、難燃剤などの添加剤がもたらす人体への悪影響といった憂慮すべき事実も紹介された。最後の質疑応答では、学生からの疑問点に対する回答を通し、さらに知見を深められる大変有意義な学びの場となった。本講演会は環境教育検討部会の主催で、毎年様々な環境分野に関する講師を招き、タイムリーな話題を選んで開催しており、大学の役割のひとつとして期待される気候変動や脱炭素社会を担う「グリーン人材」の育成を

カレッジマイスターエクセレント認定

ものづくりの総合力で社会貢献できる人材を育成

カレッジマイスタープログラムでは、各プログラム分野において高い見識・知識および技術を身に付けたと認められた学生に、マイスターの称号が与えられる。今回は36名が3学年修了時にカレッジマイスターの称号を得ており、その中でも特に優れた17名には、学位記授与式においてカレッジマイスターエクセレントの賞状とゴールドメダルが授与される。

これらの受賞者は、今後も「ものづ

くり」における高い総合力を発揮し、社会に大きく貢献することが期待される。

各プログラムでの受賞者数は、機械加工工房(3名)、フォーミュラ工房(1名)、モノ創りデザイン工房(2名)、知能化モビリティ(2名)、Science Grit(1名)、ロボット製作プロジェクト(1名)、ヒューマノイドロボット研究(1名)、フィジカルコンピューティング工房(2名)、木造建築工房(4名)である。



フォーミュラ工房



ロボット製作プロジェクト

# 埼玉キャンパス 写真アルバム

今年度の卒業生が入学した2019年、年末から新型コロナウイルスの影響が社会全体を覆い、本学の学習環境、学生生活も一変した。その影響はここに掲載した写真にも表れている。

20年度に入ると状況は二層厳しくなり、緊急事態宣言が度々発出される中、ほとんどのイベントが中止、縮小された。例えば大学祭(若杉祭)はオンライン開催となり、翌21年は5号館を会場に在学生のみに入場制限して開催された。

多くの学生にとって、想い描いていたキャンパスライフとはかけ離れた状況が2学年以降、卒業まで続くこととなった。厳しい制限の中で、何ができるか、どんな形でできるか。学生と大学側で試行錯誤を続けた3年間であった。

本館



## 入学式

2019年4月



## 体育祭

2019年9月



## ウェルカムパーティー

2019年4月



## 学生総会

2022年5月



## 夏祭り

2021年8月



## 授業風景

2020年8月



## 若杉祭

2021年10月



多目的講義棟



◆主に4年生(卒業生)が活躍している年度の写真を掲載しています。  
◆年月は掲載写真の撮影時期を示しています。  
◆★印の写真は学生自治会卒業アルバム委員会より提供されました

### 2022年度 学長賞・英語学習サポートセンター長賞

学長賞は学業成績が特に優秀な学部卒業生と大学院修了生を対象とし、学会等への論文投稿や表彰件数などの実績をもとに選考される。英語学習サポートセンター長賞は、英語科目で特に成績が優秀であると認められた学部生が対象となる。

#### ■学長賞（学部生）

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
電気電子 通信工学科		
応用化学科		
ロボティクス 学科		

学 科	氏 名	出身校
情報メディア 工学科		
建築学科 建築コース		
建築学科生活環境 デザインコース		

#### ■学長賞（大学院生）

専 攻	氏 名
電子情報メディア工学専攻	
建築デザイン学専攻	

#### ■英語学習サポートセンター長賞（学部生）

学 科	氏 名	出身校
応用化学科		
建築学科		

昨年「新製品事業開発法」という科目を担当している。ゼロベースのアイデアから製品や事業を考案し、スタートアップさせるシミュレーション型の講義である。受講者にとって最初の壁は、「アイデアとは何ぞや？」となる。ここが意外と難しいのである。アイデアとは何を意味するのかわからない。一つの解として、外山滋比古『思考の整理学』やJ・W・ヤング『アイデアの作り方』は、アイデアとは物事の組み合わせであるこ

とを教えられる。要するに、既存の物と物、物と事、事と事、これらの組み合わせがアイデアという事になる。くわえて、ピタゴドラッカーは、アイデアにもとづくイノベーションは経済活動の大きな源泉であると述べている。既存の物事の組み合わせがアイデアとなり、アイデアはイノベーションへと転じ、経済活動を前進させる。アイデアはイノベーションという大河上流の源水一滴なのである。他方、この手の実践的

講義は学術的ではないと批判されることもある。しかしながら、アイデアからの製品事業開発と学術研究は相似形にあると小職は考える。研究プロセスは先行研究を徹底的レビューから始まる。丁寧なレビューから新たな発想すなわち仮説が生まれ、仮説は分析と検証から実証が為される。既存の先行研究の組み合わせが仮説とすれば、研究仮説とはアイデア、熟考された分析と検証はイノベーションと置換できよう。研究プロセスも先達

のアイデアからのイノベーションが重要なのである。実践も理論も、既存要素を組み合わせたアイデアから物事を展開することとが不可欠である。念入りな先人知見レビューの組み合わせからアイデアを生み出し、イノベーションへと駒を進めることが肝要である。この原理原則は、意外な場でもみることが出来る。松尾芭蕉は「不易流行」という概念を生み出した俳人である。不易は変わらない物事、流行は変わりゆく物事である。不易は流行の母となる。日本には不易流行を文化として成熟させてきた歴史がある。日本文化である不易を冀求するものである。

3月に入り大学生の就職活動が本格化している。企業の採用活動に対して政府が要請している日程では、大学4年生になる直前の3月から企業の説明会および応募書類の提出が始まり、6月から面接が解禁となっている。しかし、このルールが形骸化している。もともとIT系や外資系など、早くから内定を出す企業はあったが、それ以外の企業においても早期化が進んでいる。それに加えて、新たなアイデア、イノベーション、時代の創造を冀求するものである。

て、早期採用ルート（インターンシップやオファertype就活サイトを経由した採用活動）から学生に、より早く内定を出す動きも広がっている。本学学生のなかにも、3年生の6月に就職活動の準備を始め、夏のインターンシップに参加した結果、11月には早期選考による内定を獲得した例もある。とは言え、多くの学生にとっては、これから本番である。本学では、2月13日、21日の土日を除く7日間、学内に350社を招き「合同企業研究セミナー」を開催した。1、2年生を含む500人以

上の学生が、今後の活動に活かそうと担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。このセミナーで得た情報を活かしながら、現在は多くの学生が積極的に就職活動をしている。一方で「売り手市場」との言葉に甘え、今一つ就職活動をしたい。就職相談を通して「履歴書添削」や「模擬面接練習」さらに「企業紹介」など、充実した支援を続けていく。内定獲得の日まで皆さんの味方であることを忘れないでほしい。

模擬面接練習

就職活動に力が入らない学生には、4月17日から5日間実施する「学内合同企業説明会」に参加することを勧める。「理系新卒」というブランドは人生で一度きりである。これから本命の企業の選考に臨む学生は、「実工学」の学びで身につけたチカラを自分の言葉にし、熱い想いを相手に伝えることで悔いのない就職活動をしてほしい。

就職活動に力が入らない学生には、4月17日から5日間実施する「学内合同企業説明会」に参加することを勧める。

## マイクロロボコン高校生大会

### 3年連続となる遠隔開催。来年は本学開催に期待。



YouTubeで公開されたオンライン表彰式

第16回マイクロロボコン高校生大会は本学での開催を予定していたが、昨年同様に遠隔での開催となった。

高校では、コロナ禍の影響の中で部活動や課外活動等があまり活発に行われなくなっていた時期があったが、本年度は少しずつ落ち着きを取り戻した高校が活動を再開し始めている。その中で、製作の仕方等の問い合わせは多くあったが、新たな活動として大会の参加に間に合わなかった高校もあり、来年度以降はより多くの高校の参加が

期待される。大会結果は、各高校から送られてきた映像と計測タイムによって評価された。審査結果と表彰の様子を撮影した映像を合わせて、YouTube上で公開した。最近は高校生も映像を撮影して送る事に慣れている様で、すべての参加校から映像が届いた。

3年続けて遠隔での開催となってしまったが、会場での緊張感や他校との交流が足りないことから、来年度は本学での開催を望む声が多く聞かれた。

#### 競技結果表

順位・表	高校名	操縦者	ロボット名
優勝	愛媛県立松山工業高等学校	濱田 康誠	citation X
準優勝	愛媛県立松山工業高等学校	宮岡 佳治	下顎廻爪
第3位	愛媛県立松山工業高等学校	中須賀 光希	ゆーま様
第4位	愛媛県立今治工業高等学校	久保 寿摩	KAZU Robot Edition II
第5位	長野県箕輪進修高等学校	和田 隆之介	ミノキチJr.
第6位	愛媛県立今治工業高等学校	廣木 佑希	キュウリ
第7位	東京都立八王子桑志高等学校	渡邊 新之介	幸成
第8位	福島県立塙工業高等学校	澤口 楓佳	零
優勝	長野県松本工業高等学校	西脇 琉晟	雀ちゃん
準優勝	長野県松本工業高等学校	加藤 雅陽	飯森エビデンスⅢ
第3位	長野県箕輪進修高等学校	館野 太輝	雪風改二
第4位	埼玉県立与野高等学校	加藤 小瑠里	カシオペア
技術賞	愛媛県立今治工業高等学校	久保 寿摩	KAZU Robot Edition II
エコロジー賞	東京学芸大学附属高等学校	宮崎 泰輔	おせちくんⅡ
デザイン賞	長野県松本工業高等学校	加藤 雅陽	飯森エビデンスⅢ
工友会賞	東京都立八王子桑志高等学校	大前 皓聖	鷹志
学長賞	茨城県立つくば工科高等学校	※学長賞は高校が受賞対象	

### 第72回教育改革シンポジウム（12月15日開催）

#### 教育現場のLGBT

## LGBTの学生が過ごしやすい学校現場とは

学校法人の教職員研修「当事者にとってカミングアウトは、する・しないのどちらにもリスクがある。本人の意思を尊重すべき」LGBTの大学生への対応をテーマとしたものであった。前半は、レイ法律事務所



トークセッションを行う岩崎氏(左)と森氏

後半は、大学時代を男性として過ごし、現在は女性としてレイ法律事務所勤務する岩崎氏と森氏によるトークセッション。岩崎氏からは「大学時代に自身が抱えていた困

学生の多くが直面する困難」「教職員・大学によるLGBT対応の成功事例と失敗事例」などが説明された。

難「たとえ家族でもカミングアウトすることで負担をかけたくない。この人なら理解してもらえると、思う相手にカミングアウトする」「LGBTと一括りにされてしまうが、各人の思いや困難は全く違う」など、当事者の心情に即した様々なエピソードが披露された。今回のシンポジウムは、対面・オンライン合わせて180名を数える参加者からも大変好評で、事後アンケートにも「LGBTの方々の立場や思いに理解を深めることができた」との声が多く寄せられている。

#### 就職支援情報

## 就職活動が本格スタート止まらない内定の早期化

3月に入り大学生の就職活動が本格化している。企業の採用活動に対して政府が要請している日程では、大学4年生になる直前の3月から企業の説明会および応募書類の提出が始まり、6月から面接が解禁となっている。

て、早期採用ルート（インターンシップやオファertype就活サイトを経由した採用活動）から学生に、より早く内定を出す動きも広がっている。本学学生のなかにも、3年生の6月に就職活動の準備を始め、夏のインターンシップに参加した結果、11月には早期選考による内定を獲得した例もある。とは言え、多くの学生にとっては、これから本番である。本学では、2月13日、21日の土日を除く7日間、学内に350社を招き「合同企業研究セミナー」を開催した。1、2年生を含む500人以

上の学生が、今後の活動に活かそうと担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。このセミナーで得た情報を活かしながら、現在は多くの学生が積極的に就職活動をしている。一方で「売り手市場」との言葉に甘え、今一つ就職活動をしたい。就職相談を通して「履歴書添削」や「模擬面接練習」さらに「企業紹介」など、充実した支援を続けていく。内定獲得の日まで皆さんの味方であることを忘れないでほしい。

就職活動に力が入らない学生には、4月17日から5日間実施する「学内合同企業説明会」に参加することを勧める。

# 学長と学生代表の懇親昼食会

1月16日、学長と学生自治会代表者の懇親昼食会が開催された。成田学長、中野学生支援部長、齊藤学生支援課長、橋中央執行委員会委員長らが参加し、有意義な意見交換を行った。

昼食時は、新型コロナウイルス感染症対策として「黙食」を徹底しての開催となった。学生は終始緊張した表情だったが、自己紹介や各委員会が抱える課題、学生自治会各団体への加入者促進など、今後の活動について展望を語った。

コロナ禍で、活動やイベントに制限が課されている各団体の活動について話が及ぶと、学長は「新型コロナウイルス感染症の影響は依然あるが、学生生活向上委員会や『日工大川柳』や体育祭実行委員会などの『e-sports』など、新たな企画もコロナ禍で生まれた。クラブ団体



へは加入者促進に対して、橋中央執行委員会委員長は「学生自治会が増やし、生き生きと活動している学生自治会をアピールすることが効果的だ」と語った。

また、新入生勧誘イベントである春祭りについて、橋中央執行委員会委員長は「学生自治会が一人ひとりの新入生歓迎イベントを盛り上げ、昨年を超える加入者増加に繋げたい」と次年度に向け意気込みを語った。

# 埼玉県技能競技大会 成績優秀者

機械工学科3年の木島竜さんが11月24日、さいたま市文化センター大ホールで行われた「第29回彩の国職業能力開発促進大会」技能者表彰式において、令和4年度前期埼玉県技能競技大会成績優秀者として埼玉発協協会会長の連名による表彰を受けた。

成績優秀者は技能検定実技試験を兼ねて実施される埼玉県技能競技大会において特に優秀である

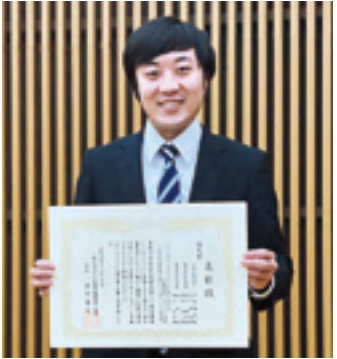


成績を収めた者に与えられる。本学の目指す実工学の学びを体現した成果といえる。

12月7日、木島さんが機械実工学教育センターには約70台の工作機械が設置されており、特色ある体験的実工学教育の場として専任スタッフが技術指導を行うなど、資格取得を目指す学生の支援を続けている。

# 建設施工と建設機械 シンポジウム論文賞

11月29日から30日に開催された「令和4年度建設施工と建設機械シンポジウム」において、機械工学科4年(石川研究室)大崎楓成さん(筆頭著者)が論文賞を受賞した。受賞論文は大林組大本組からの受託研究「ニューマチックケーン工法における自動掘削システムの開発」天井走行式掘削機の自動化および掘削機自動認識システム」について、掘削機自動認識システムを開発し、実機による有効性を示した。



審査委員会の査読の結果、実機による有効性を示した。審査委員会の査読の結果、実機による有効性を示した。

# 開放特許を活用した学生アイデア発表会 審査委員特別賞

大企業の特許を活用し、中小企業でも実行可能な商品化アイデアを学生が提案する「開放特許を活用した学生アイデア発表会in埼玉」。本学1・2学年の有志チームが12月6日、審査委員特別賞を受賞した。

リーダーを務めるデータサイエンス学科1年の川崎広太さんの呼びかけで活用した学生アイデア発表会in埼玉。本学1・2学年の有志チームが12月6日、審査委員特別賞を受賞した。



「3Dデジタルシシング技術」を選択。これに自分達の得意分野であるIT・VR技術と大学オープンキャンパスのニーズを組み合わせ、VRオープンキャンパス実施に必要な大

# 天満宮例祭

今年为天満宮例祭は2月18日11時より、3分咲きの梅が香る天神門脇の天満宮社前において肅々と執り行われた。

昨年同様、参列者は学内関係者のみに限定されたが式次第は通常通り進行。春の訪れを思わせる穏やかな陽気の中、宮司による祝詞奏上、参列者による玉串奉奠などが肅々と執り行われ、本学の発展と御神威の発揚が祈願された。



# 日本ソフトウェア科学会 学生奨励賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程2年(橋浦研究室)の飯山隆章さんが9月29日、日本ソフトウェア科学会第39回大会において学生奨励賞を受賞した。受賞研究名は、「ソフトウェアの概念モデルに対する欠陥検知手法の検討」。

ソフトウェアの開発工程は要件定義、設計、実装、テスト、運用の順に行われる。昨今のソフトウェアは大規模化、複雑化が著しいため、設計段階で欠陥が作りこまれているとソフトウェアの保守や拡張の際に困難を来



たす可能性があるため、設計段階で欠陥を検知して除去することが重要となっている。

従来の欠陥感知手法で欠陥を修正する際には、対象ソフトウェアを実装した後で検知を開始する

# 町代より 宮だ 240号

卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございませう。また、在学生のみならず、ご進学おめでとうございませう。春の恒例イベント「みやしろ桜の写真コンテスト」美しい桜と宮代町の風景をテーマに撮影した写真を募集します。職場、家庭、野外など町内であれば場所は問いません。応募点数は3点まで。応募方法は4月21日(金)までに応募票を添付し環境推進担当まで持参・郵送してください。

人事異動

【定年退職】(3月31日付)

- ◆ 工藤浩教授(共通教育学群)
- ◆ 本村猛能教授(共通教育学群)
- ◆ 神林靖准教授(情報メディア工学科)
- ◆ 鈴木仁准教授(共通教育学群)
- ◆ 山本好史事務職員(財務課)

【退職】(3月31日付)

- ◆ 高橋昭夫教授(専門職大学院)
- ◆ 鈴木宏典教授(ロボティクス学科)
- ◆ 三坂育正教授(建築学)
- ◆ 秋元俊成准教授(ロボティクス学科)
- ◆ 田口裕一事務職員(教務課)
- ◆ 鈴木正嘯託職員(総務課)

◆ 日下部恵美子嘱託職員(LCセンター事務課)

◆ 平柳恵作嘱託職員(工業技術博物館)

◆ 西本真一教授(建築学)

# 大学入学共通テスト 実施報告

大学入学共通テストが1月14日・15日の両日にわたって実施され、本学は同テストの試験会場となった。受験者が安心して受験できるように学内の準備を徹底し、学外においては鉄道機関や地元警察にも協力を要請。両日ともに各教科の試験が滞りなく行われた。

昨年は他会場で、受験生がスマートフォンを使って問題を外部に流出させた不正行為が発生したことから、今年は電子機器類の電源を切って入室するよう試験室出入口に掲示された。また新型コロナウイルス感染症防止対策として、受付や試験室の出入口前に手指消毒用アルコールを設置する等の対策を講じ、受験者を迎えた。

本学では、大学入学共通テストの受験者に向けて「共通テスト利用」の入試を実施している。

◆ 内田祐一教授(応用化学科) / 出張先「ベルギー」(4/15~4/23)

◆ 目的「第8回スラヴ国際シンポジウム」での発表と討議